

平成26年度

学校評価アンケート資料

(教員・生徒・保護者)

大阪商業大学高等学校

平成26年度 『学校評価』 アンケート結果

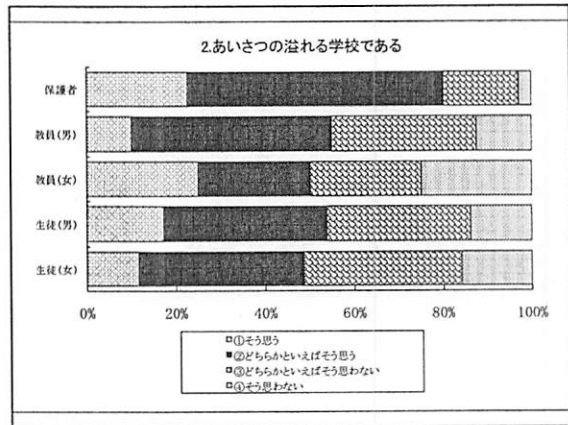
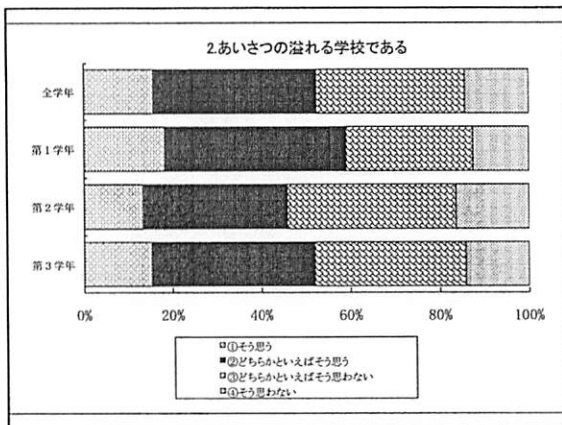
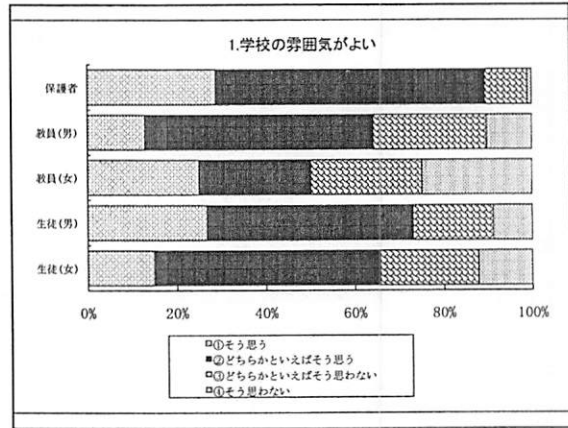
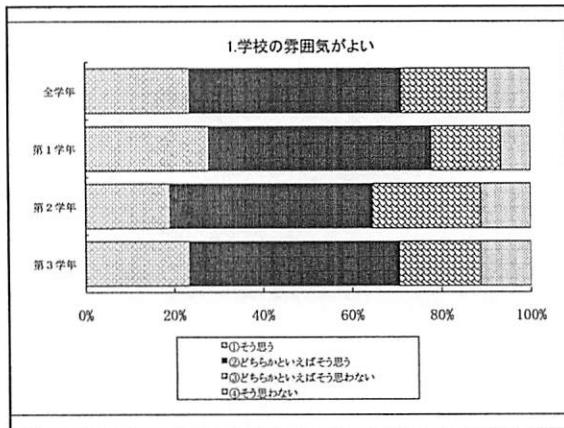
(資料) 学校評価アンケート内容

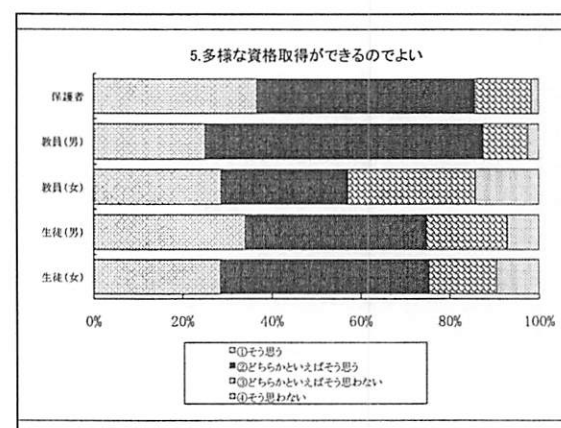
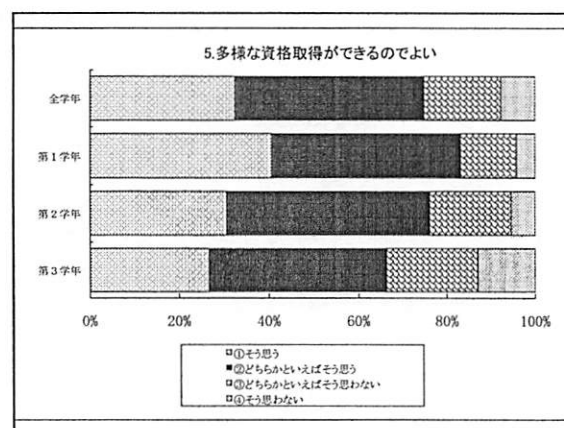
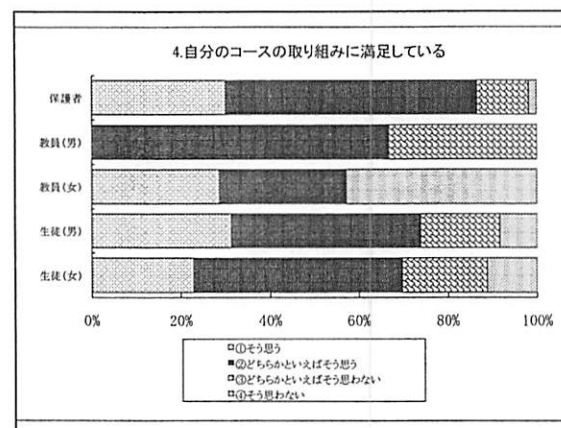
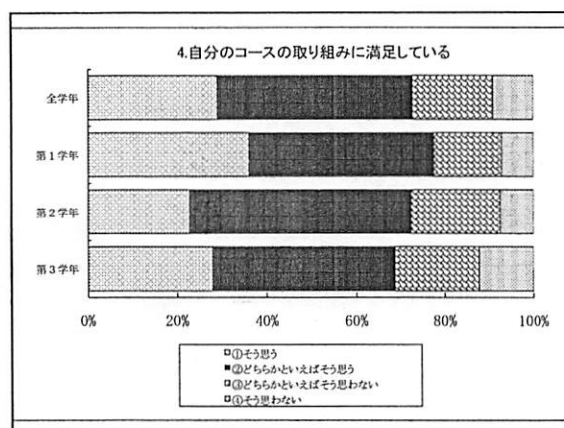
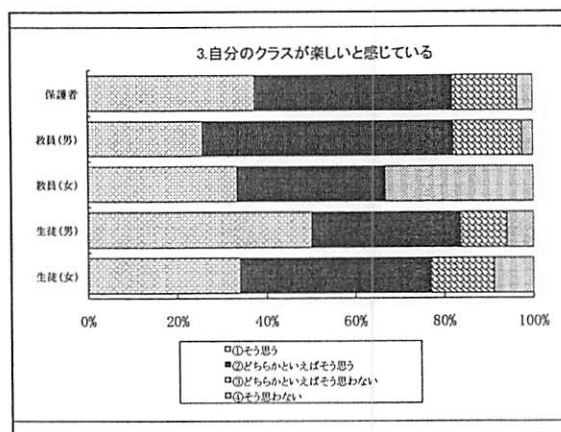
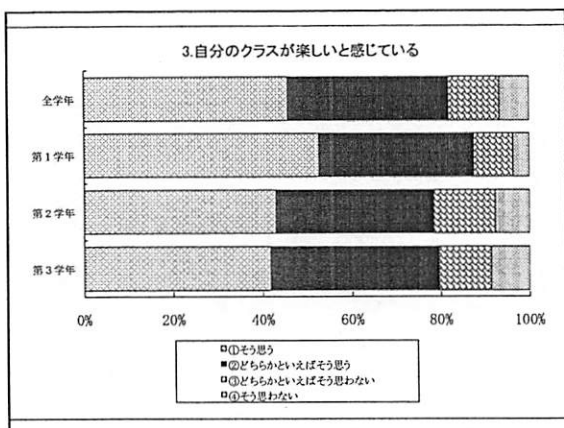
〈 保護者用：生徒用・教員用は同じ内容で表現のみ異なる 〉

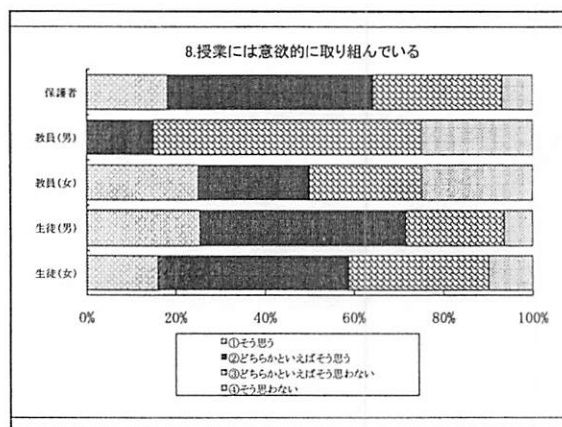
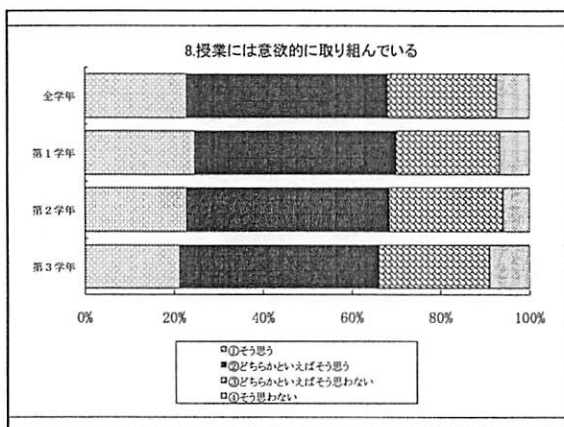
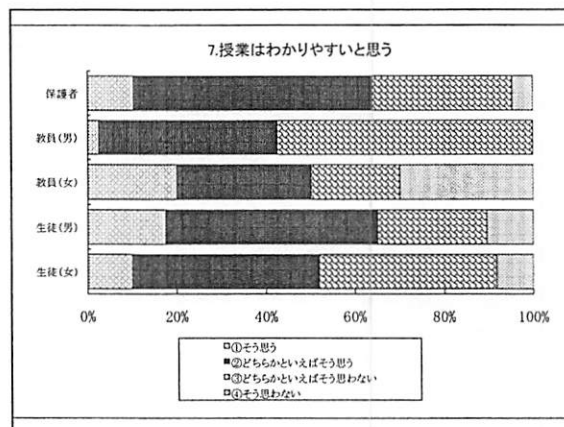
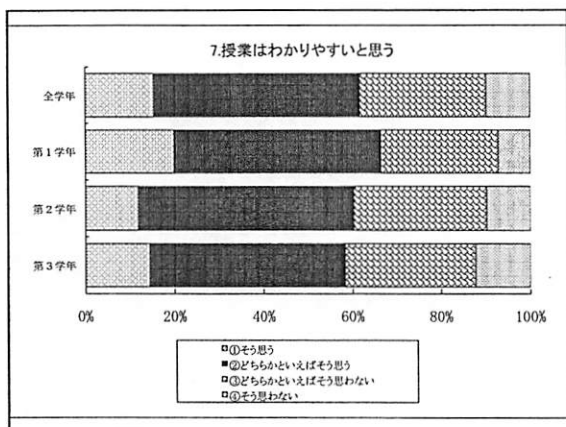
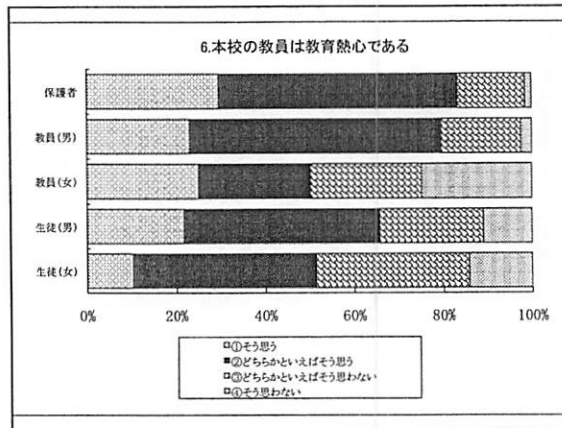
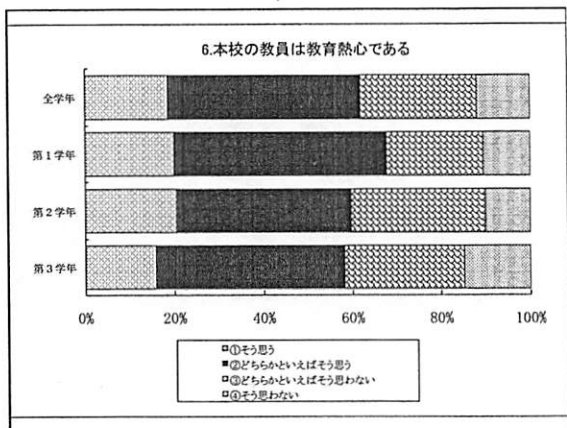
1. 学校の雰囲気がいよい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
2. あいさつの溢れる学校である・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
3. お子さんは自分のクラスが楽しいと感じている・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
4. 自分のコースの取り組みに満足している・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
5. 多様な資格修得ができるのでよい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
6. 本校の教員は教育熱心である・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
7. お子さんは授業がわかりやすいと感じている・・・・・・・・・・・・ (学習)
8. お子さんは授業に意欲的に取り組んでいる・・・・・・・・・・・・ (学習)
9. 授業・模擬テストは進路に対応している・・・・・・・・・・・・ (進路指導)
10. 進路に必要な情報は適切に提供されている・・・・・・・・・・・・ (進路指導)
11. 先生はお子さんの悩みを親身になって聞いてくれる・・・・・・・・・・・・ (生活指導)
12. 生徒に対する学校の規則は妥当である・・・・・・・・・・・・ (生活指導)
13. お子さんは学校の規則を守っている・・・・・・・・・・・・ (生活指導)
14. お子さんは学校の生活指導について納得している・・・・・・・・・・・・ (生活指導)
15. 学校行事や成績の情報が保護者にきちんと伝わっている・・・・・・・・・・・・ (高校生活全体)
16. 学校行事は楽しく充実している・・・・・・・・・・・・ (行事)
17. 部活動は活発で充実している・・・・・・・・・・・・ (行事)
18. 校内の施設・設備はよく整備されている・・・・・・・・・・・・ (その他)
19. 入学させてよかった・・・・・・・・・・・・ (その他)

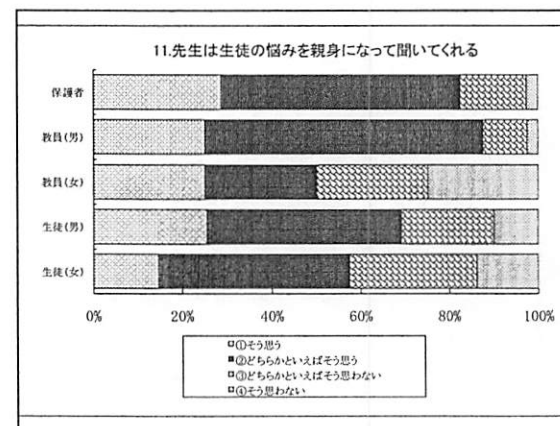
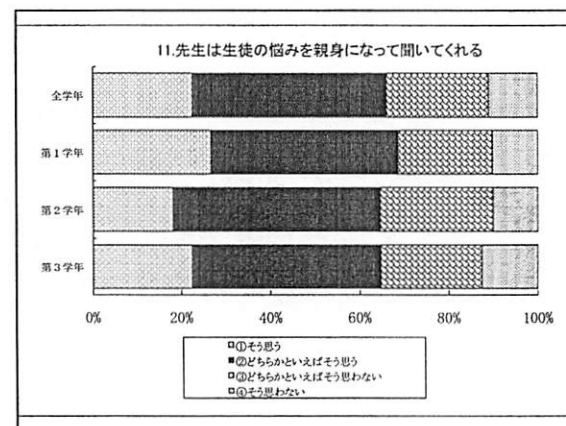
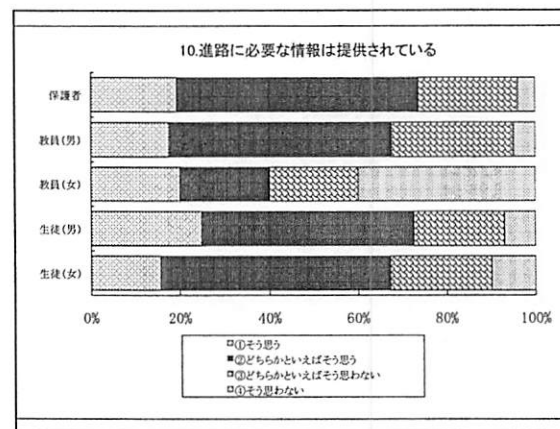
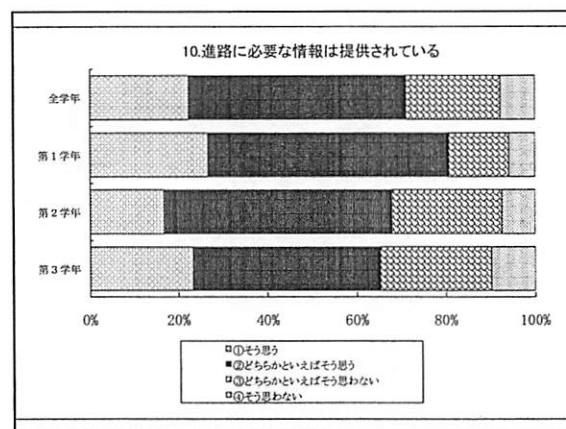
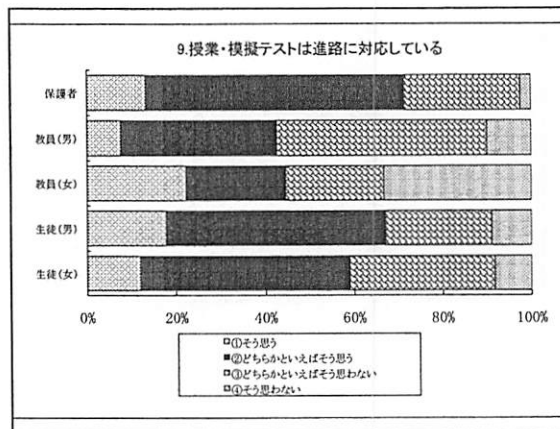
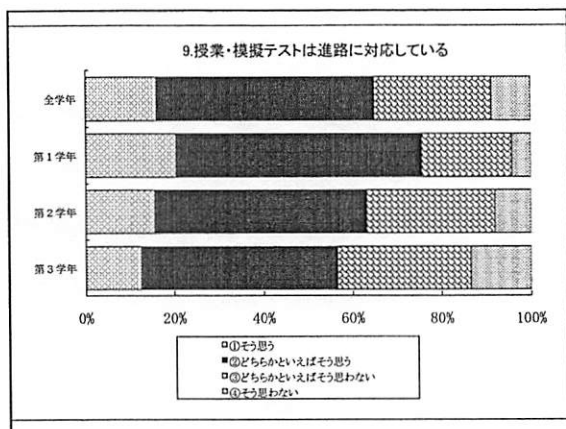
学校評価(生徒学年別)

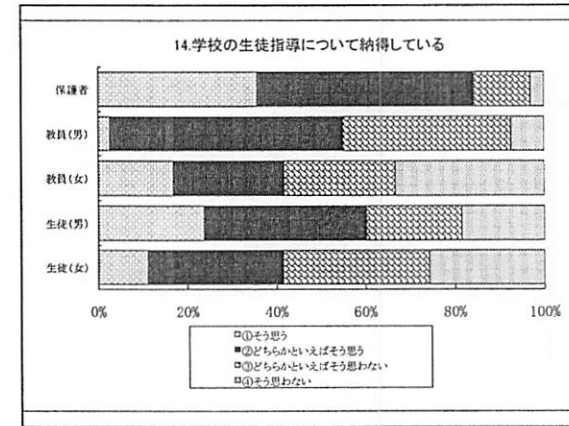
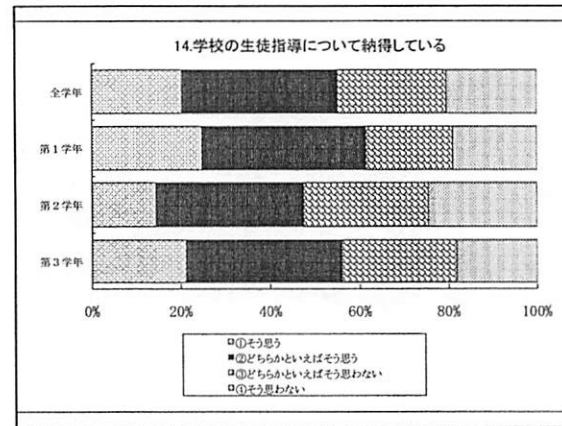
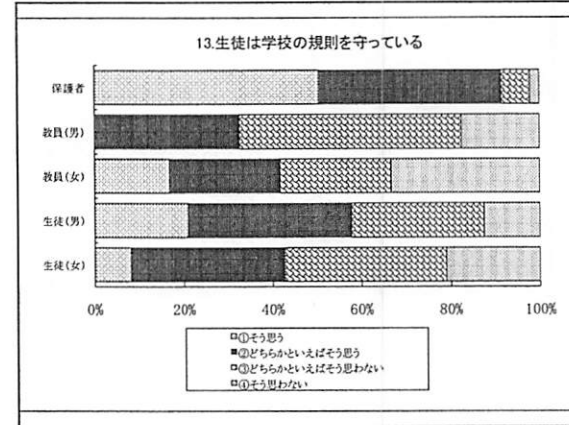
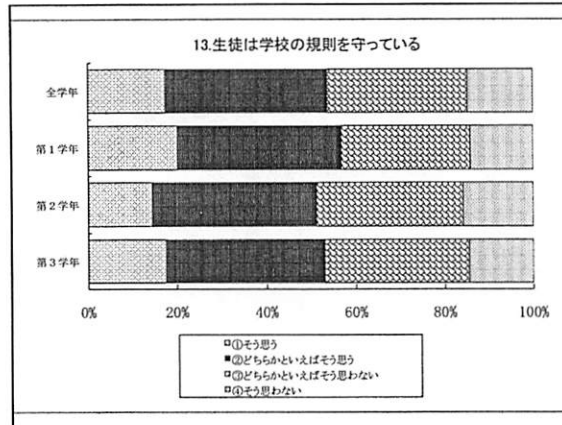
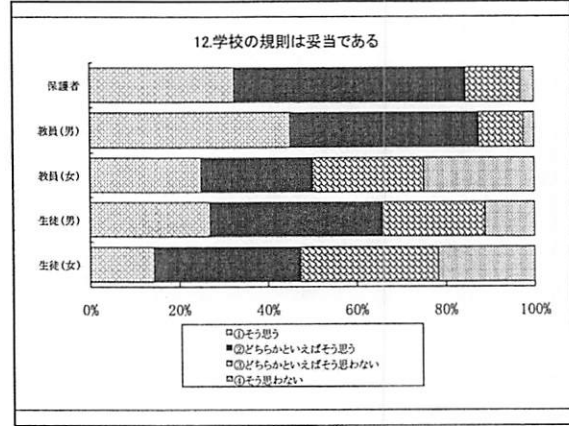
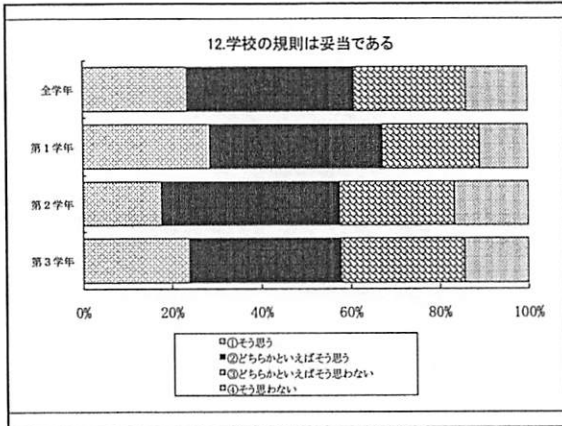
学校評価(三者比較)

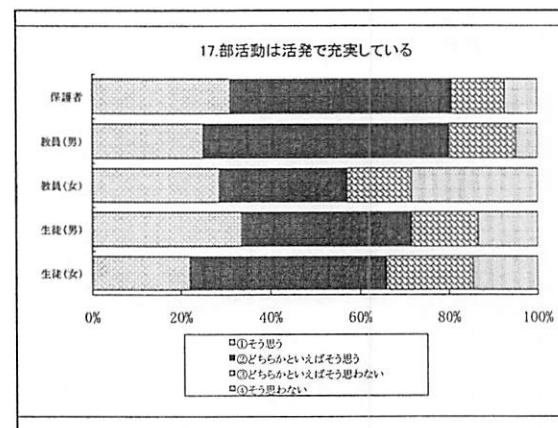
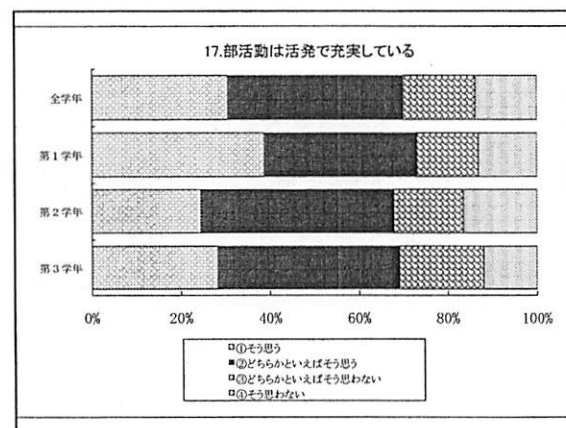
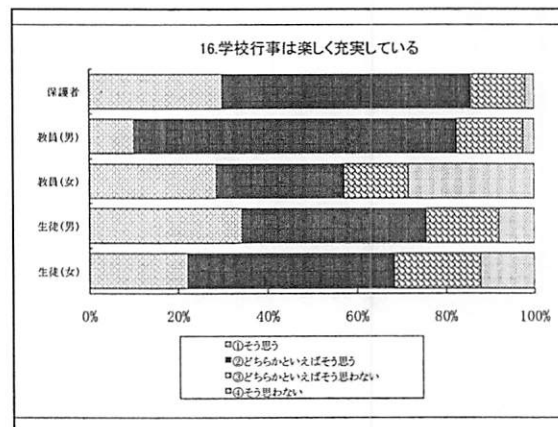
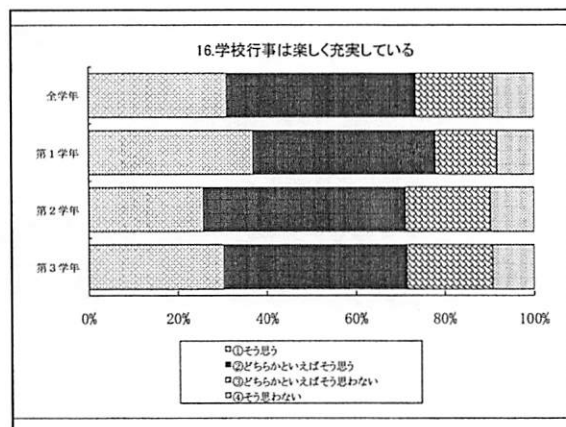
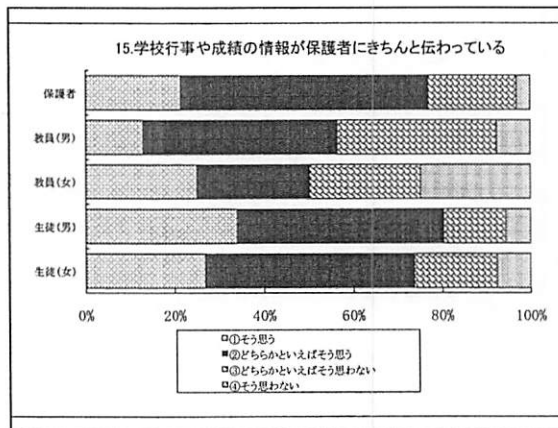
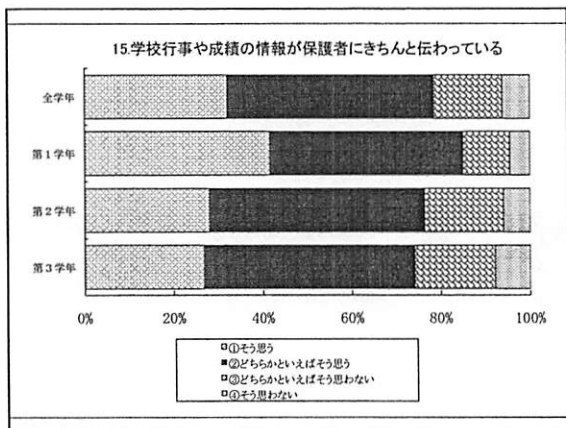


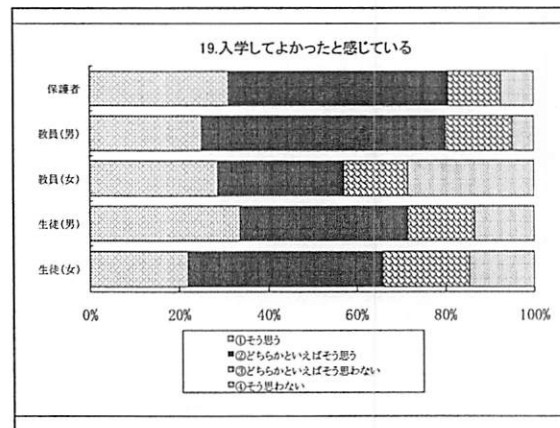
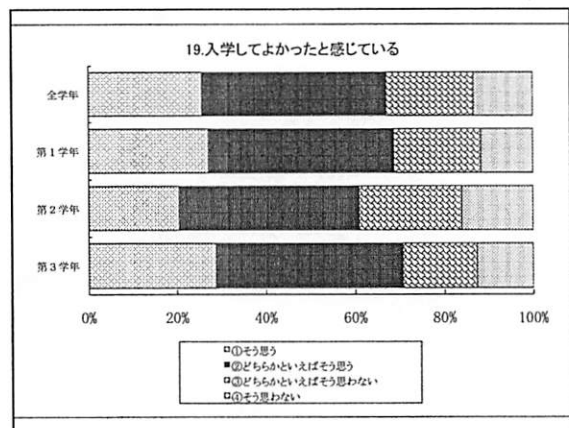
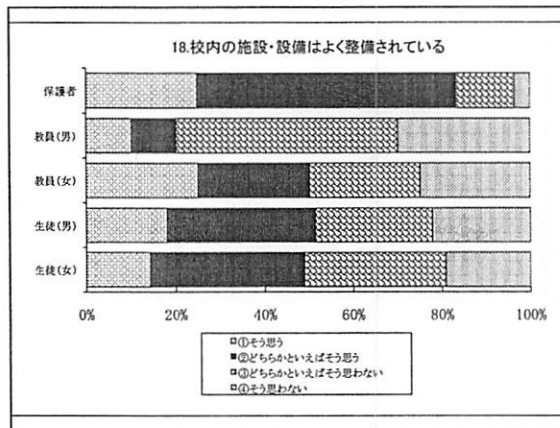
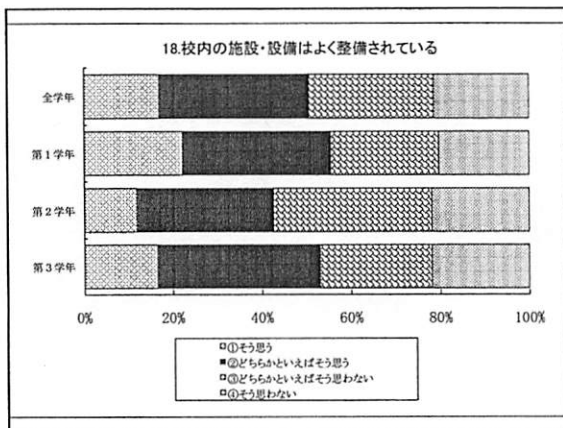












平成 26 年度 『学校評価』 アンケート結果

I. 教員アンケートより

< Q1～6、高校生活全体について >

全体的に見て、肯定的な意見が多かった。これは、「学校の雰囲気良く、生活環境が良い。」と言える結果になったと思われる。特に、「自分のクラスが楽しいと感じている」の項目に関しては男女平均で7割を越える結果となった。これは学校設備の充実と生徒の落ち着き度合いが、反映したものと思われる。また、教員の生徒に対する日々の学習指導・生活指導等が、生徒にとって良好なものであり、他の項目においても満足度が高いと言える状況であると判断できる。

< Q7～8、学習について >

教員側の、わかりやすい授業を展開できているかという項目においては否定的な意見もあったが、保護者からのご意見として、本校教員の授業はわかりやすいと感じている意見が多かった。また、生徒の取り組みが意欲的でないと感じている意見も多かった。これは、今後の改善に向けて教員はよりわかりやすい授業を実践し、意欲的な生徒を増やす授業を探究することが強く求められる。

< Q9～10、進路指導について >

授業、模擬試験等が進路に対応しているという意見は約5割という結果になった。これは進路決定において、様々な考え方や方向があるからだと言える。また、コースによっても様々な進路の選択が可能であるため、幅広く対応できる進路指導が求められる。それぞれの進路目標を設定し、それぞれの生徒に合った進路情報を正確に届けることが重要である。そのためには、学校と生徒・学校と保護者が納得いくよう、学年、進路指導部が力を入れて指導していく必要がある。

< Q11～14、生活指導について >

学校の規則は妥当であると感じている意見が多かったが、学校の規則を守れていないと感じている意見も多かった。課題としては、本校の生活指導についての考え方の理解を一貫して促し、教員側の姿勢等を徹底させていくことが必要である。日頃の悩み等の相談については親身にきいていると思っている点は良かった。

< Q15～19、高校生活全体・行事・その他について >

本校の学校行事の取り組みは、楽しく充実しているという意見が多く見られた。また、クラブ活動においても活発で充実しているという意見が多かった。年度毎に体育祭・文化祭・校外学習等の取り組みについて、学校全体で反省点についての意見を出し、次年度に向けての改善・対策をしている結果にあると思われる。これは毎年向上心をもって継続していきたい。そして、より生徒の立場に立った見方ができるよう様々な角度からの取り組み、生徒との直接的なコミュニケーションが必要である。

II. 生徒アンケートより

<Q 1～3、学校生活全般>

3項目とも1年生の満足度の方が高い傾向が見られた。また、男女間では女子の満足度が低い傾向がある。2学年では「学校の雰囲気が良い」という生徒が7割を切っており、2年から3年でのクラス替えを希望する声もあるのが気になるところである。また、「治安が悪い」という意見もあった。

本校の特色であった「あいさつの溢れる学校である」という点に関しては、5割を切った学年もあり、2・3年では特に挨拶やマナーがきちんと出来ていない生徒や教員に対する指摘が多く見られた。特に教員の言葉遣いや挨拶に対する不満の声もあることは、教員間で周知しなければならない。

<Q 4～5、コース活動>

コース活動に関しては7割を超える生徒が満足している。また、資格取得に関してもコースによって取れる資格に差はあるが、男女とも7割以上肯定的である。資格取得のための補習をする等の教員の努力もあると思われる。これからもコース制を活かし、時代やニーズに即した取り組みや実用的な資格取得を模索していくことが必要と思われる。

<Q 6～8、学習指導関係>

3項目とも学年にほぼ差はなく6割程度の生徒が肯定的な意見を示している。ただし、男女間ではQ 6、Q 7に関しては5割程度しか肯定的に見ていない。生徒の意見からは教員の教育力の差が指摘されている。

<Q 9～10、進路指導関係>

進路に関する情報提供に関しては7割の生徒が、特に1年では8割近い生徒が肯定的である。模擬試験や進路に関しては学年があがるにつれ、肯定的な意見が減っている。生徒の多岐にわたる進路に対応するために選択授業のバリエーションを増やしているが、その効果の見直しも必要かもしれない。

進路に関しては生徒からの意見が全く見られなかったので、進路に対する意識が低い可能性があることには注意したい。

<Q 11～14、生活指導関係>

生活指導については特に否定的な意見が多い分野となった。特に女子生徒は規則の妥当性から納得していない生徒が半数以上おり、6割近くが規則を守っていない生徒を指摘し、生活指導の内容にも納得していない。意見でも、「化粧やカラコン程度は認めて欲しい」などの自分に甘い考え方をあげてくるなど、遵守する気持ちも低い様子が見られた。

一方で、「生活指導を厳しくして欲しい」という意見も複数見られた。ルールを守らない生徒に対

して、指導が徹底できていないという現状が「生活指導の納得」での否定的な結果となっていると思われる。これは意見の中で「理不尽」「生徒の意見を聞いていない・見ていない」「言っている事が矛盾している」という教員に対する信頼感につながる部分にも影響を与える形で現れている。

生活指導に関して多かった意見としては遅刻指導の厳しさがあげられている。これについては現在の指導方法の前後で確実に効果が上がったのだが、生徒には不評である。

<Q16～17、特別教育活動>

学校行事・部活動に関する肯定的意見は学年・男女差はあまりなく7割近い。クラス中心とした行事活動を増やして欲しいという意見が見られた。部活動については、設備面（特に部室周辺）での不満が多く見られた。この部分の改善が見られると、もう少し満足度が上がると思われる。

<Q15、Q18～19、設備・その他>

アンケートの中で最も満足度が低いと思われるのが設備面で、特に2学年、女子生徒の満足度は5割を切っている。クラブ活動に関する設備の不満が一番多いが、ついで食堂、トイレ、教室と全てについて不満が出ている。設備の不十分さ、老朽化だけでなく、ほこりっぽいなどといった衛生面での指摘もある。生徒数の増加、女子生徒の増加が常態化しているにもかかわらず、対応しきれない現状が見て取れる。

今回新たに設問を設けたQ15「保護者との情報共有」については、肯定的意見が7割以上となり、保護者のアンケート結果からも学校の情報が伝わっていると思われる。しかし、1割未満としても、情報が伝わっていない保護者がいる事から、担任を中心に各生徒の状況把握し、漏れの無いように情報共有がされるよう努力が必要である。

最終的に「入学してよかった」と思える生徒は全体の7割をわずかに切っており、例年とあまり変わらない結果となったが、「そうは思わない」と言う生徒・保護者が微増しているところは注意したい。

Ⅲ. 保護者アンケートより

〈Q 1～4、学校生活について〉

8割～9割以上の保護者が、学校生活において肯定的な返答をされている。特に、学級担任への信頼が厚く、感謝を述べられる意見が多数目につく。その反面、授業によっては成立していないので改善してほしいという意見も複数見られ、たいへん大きな課題を突き付けられている。

〈Q 5～8、学習について〉

Q 7の否定的な返答が3割以上あり、大きな問題である。授業が学校生活の根幹であり、この結果を我々教員団は重く受け止めなければならない。

〈Q 9～10、進路指導について〉

Q 9の授業に関する問は肯定的な返答は7割にとどまり、やはり授業に関して不満をお持ちだと言える。今後は、文理進学コースの1期生も卒業するので、さらにきめ細かい進学指導が必要であり、授業の充実が急務である。

〈Q 11～14、生活指導について〉

各問とも、8割～9割以上が、肯定的な返答であり、概ね理解をいただいていると言える。もっと厳しくしてもらっても構わないという意見も見られる。

〈Q 15～19、行事・その他について〉

Q 15に関して、否定的な返答が2割を越え、不安に思っておられる保護者も多いと思われる。クラブ活動に関しては、たいへん満足しておられる保護者と厳しい意見を述べられる保護者がおられ、どちらにしても保護者からの期待度は高く、クラブ活動を充実させていく必要がある。

先述したが、保護者から担任へ感謝を述べる意見が多数見られ、それが学校への満足度にも直結していると言える。各クラス担任の仕事が本校を支えているといっても過言ではない。ただし、授業内容の改善・授業中の指導力の向上を目指す必要がある。加えて、クラブ活動が充実するよう、教員の時間確保・施設の充実が求められる。

IV.まとめ

<Q 1～6、高校生活全体について>

保護者8割以上、教員、生徒の7割以上が好意的に感じているが、この数年で①「そう思う」の数値が低下しているのが問題である。特に、Q2に関しては教員・生徒共、半数近くが否定的にとらえている。また、Q6の設問に対し、女子生徒・教員の①と②「どちらかといえばそう思う」の数値が約半数しかないことが気になる。

意見感想に『人権意識』の希薄な発言などの指摘がある(特に女子生徒・教員)。依然として「男子校」時代の粗暴さが残っているのだろうか。このことが、女子生徒の悪い評価につながっているのかもしれない。また、保護者からは、学級懇談会、クラスだよりなど、子どもの情報が常時伝わっている事への感謝がある一方、教員の取り組みに関して、クラス担任への不満がある。

<Q 7～8、学習について>

『わかりやすい授業』については、教員は5割程度しか感じていない。様々な新たな授業への取り組みを模索している教員がいる一方、依然として昔ながらの授業形態から脱却できない教員もいる。ただ、この結果は、教員の問題意識の表れだと思われるので、今後の改善には期待したい。保護者や生徒の意見からは、授業への不満や要望(内容の質・進度・クラスの授業状況・宿題の量・教員の対応)がある。また、教員からは生徒の意欲・質(能力)に対する疑問がある。この点では、「より難しい事をよりわかりやすく」という授業の展開など、新たな教授法の模索もいるようである。『生徒の授業への取組み』は生徒、保護者の約7割が意欲的に取り組んでいると感じている。我々教員が、わかりやすい授業を展開することで、学力向上につながっていくと望みたい。

一例として、板書式からグループ学習などの変更も検討していく必要がある。また、家庭学習の習慣づけなど学習時間を増やしていく工夫や授業展開が必要である。

<Q 9～10、進路指導について>

保護者・生徒約7割以上が満足しているのに対して、教員は授業や模擬試験が進路に対応しているのは約5割弱と進路対応に疑問を感じている。進路指導のあり方など、指導方法も含め模索が必要となってきた。

保護者からは、授業や模擬試験の対応・生徒や保護者への早い時期(1年・2年)の進路情報の提供と相談などの実施を願っている。

<Q 11～14、生活指導について>

『悩みの相談』は、教員7割・保護者8割・生徒6割強が満足している。『規則の妥当性』は、保護者が9割近く・教員が7割、生徒が6割弱であるが、これも女子生徒・教員の数値が低く、5割程度である。『指導への納得』については、保護者が8割以上納得していただいているのに対し、教員・生徒は5割ほどしか納得していない。『規則を守る』については、教員4割程度に対し、保護者は9割が守っていると感じていて、大きなギャップが生じている。生徒は5割程度である。教員の意識する生活指導の到

達点と、保護者の到達点の乖離が見られる。

意見からは、保護者は厳しい指導を望み、生徒は指導への不満(学年差・教員の対応差)がある。

<Q15～19、高校生活全体・行事・その他について>

学校行事では、保護者9割・教員・生徒の7割が満足している。

部活動では、保護者8割・教員・生徒7割が満足していて、大きな差異は無い。

生徒自治会での行事の取り組みで、団方式(学年縦割り)や応援合戦・幼稚園児とのコラボなど自治活動が一定進んできた成果でもあると思う。ただ、全員が参加できる形態をも含めさらに行事を盛り上げてほしい。さらに、女子クラブの充実・クラブ指導者の充実・クラブ設備の充実などの課題がある。

<設備・その他(Q16～17)について>

設備については、保護者の8割が、概ね満足しているが、生徒5割・教員4割弱と不満度は高い。特に、クラブの施設に関する要望・不満は強い。

設備についての意見は、保護者からは私学らしい施設・設備を望んでいる。生徒からは食堂や売店の要望。教員からも設備への不満がある。

『入学してよかった』との設問に対し、保護者の8割・生徒の7割が、よかったと感じてくれている。しかし、否定的な回答が2～3割あることの実を重視し、改善に努めなければならない。

その他の意見として、教員からは生徒対応や緒会議・催しの準備などの多忙化と仕事の偏りに対する不満・学校の将来の方向性への不安・教員の資質(生徒指導の態度・服装・言動・マナー・情熱など)に対する疑問などがある。

今回のアンケートでは、男女別で大きな差異が目立った。特に、女性の否定的な意見が多かった。女子生徒への、統一した生活指導、また、女子クラブの増設や、活動環境の改善等で、女子生徒の不満の減少に繋げることが大切である。

また、女性教員からは、教師側のモラル(生徒指導上の言葉づかい、服装、遅刻・欠席など)についての意見が多く寄せられている。真摯に受け止めなければいけない問題だと感じる。

平成 27 年 3 月 20 日(金)

13 時～14 時 10 分

議長 阪口耕次

書記 唐崎千春

大阪商業大学高等学校

2014 年度 学校評価委員会議事録

1. 構成メンバー

本校教職員 : 堀井・小松・阪口・小西(事務)・佐藤・唐崎・酒井^克

本校生徒 : 生徒自治会役員 2 名(田中・中尾)

大阪商業大学 : 宮坂・大林

本校 P T A : 戸高・平田

2. 意見交換

・ 学校長挨拶

・ 平成 26 年度「学校評価アンケート資料」について阪口より説明の上、教員・生徒・保護者アンケートについてそれぞれの意見を述べてもらった。

≪「学校評価アンケート資料」の説明(阪口より)≫

◆教員アンケート結果について

教員自身に対して厳しい意見が多い。大人として、ちゃんとした見本となるようにしていかないといけない。

◆生徒アンケート結果について

・ 女子の意見が厳しい。満足度が低い。挨拶が減っている。教員に対しても挨拶を返してくれない等不満がある。

・ 教員は進路をきちんとしないといけないという意見があるのに対し、生徒は不満が少ないので、進路に関して生徒の関心が低いのではないか。

・ 生活指導について「これぐらいいいんじゃないか」という生徒と指導する教員の間で意識の差がある。

・ 設備面の満足度が低い。女子生徒は汚さ、男子生徒はクラブの設備面で不満が多い。

・ 入学してよかったという意見は例年とかわらない程度だが、少ないながらも否定的な意見が増えていることは注意したい。

◆保護者アンケート結果について

・ 割と両極端の評価が出ている。が、肯定的にとらえてもらえているのではないか。

◆まとめ

・ 今まで良いととらえてもらっていた項目での肯定的な意見が減ってきている。

・ 教員が怒るときなどで人権的に問題のある発言がある。男子校時代をひきずっている部分もあるかも知れない。

・ わかりやすい授業に対しては教員自身がどうあるべきか悩んでいる。「授業をしっかり

する高校」を目指す以上、重点的に改善していきたい内容である。

- ・規則を守っているという意見は、保護者は9割だが、教員、生徒は5割以下で、ギャップがある。
- ・生活指導としては、保護者は「きびしく」、生徒は「ゆるく」してほしいという意見である。
- ・生徒も教員も女性の否定的意見が多い。
- ・教師側のモラルについて教員全体に周知できるよう訴えていきたい。

※説明の後、資料に関する質問は特になかった。参加者から結果や日頃の意見などを述べてもらった。

《意見交換》

- ・ほとんどの先生が言葉遣いに問題がないけど、注意の仕方が暴言の様になっているのは気になる。(生徒男)
- ・子供の先生に対する言葉遣いがちゃんとしていないから、先生にもちゃんと怒って欲しい。怒っている時の言葉については聞いていない。(女子生徒保護者)
- ・若い先生や、馴れ馴れしく話してくる先生には気軽にしゃべってしまう。
- ・大学でも言葉遣いは問題がある。それぞれ尊敬し合ったり思い合ったコミュニケーションをとることを心掛けている。マナー、挨拶、クリーンキャンペーンをすることで、学生と教職員が協力して学ぶ事を努力している。痛いところをつかれると不機嫌になってしまう学生はいる「お金払っているからそっちは生活出来てんねんで」ということも言われる。何のためにお金を払って学校に来ているか、と言う部分の認識をしないといけない。昔の地域が育てる習慣はないので、どの進学の段階でも同じ問題がおこっているのではないか。(大学職員)
- ・教職課程の学生はそんなに言葉遣いに問題は感じない。「論理的すぎてわからない」といわれた。講義の言葉遣いが難しいと感じているかもしれない。ちゃんといえばわかるのかなとは思う。あかんことはあかんと言ってあげるととめてあげられる。春に大学でマナーアップの講座をする予定。(大学教員)
- ・高校の授業ではわかりやすい言葉はつかってもらっていると思う。(生徒男)
- ・「治安が悪い」というのはどういうものか。(大学教員)
- ・盗難が多いということではないか。(本校教員)
- ・外部の人が入る事はないのか。
- ・夜間は入ってくる事はあるかもしれない。
- ・大学でも自転車置き場などは外部の人が入っている気配がある。教職員などの巡回が必要。防犯カメラ(ダミーを含む)などで警告しても、多少の発生はおこっている。
- ・防犯的な事で女子生徒として怖いことはあるか。(本校教員)
- ・怖いと感じる事はない。でも、廊下を土足で歩いている人がいたり、雨の日に廊下が濡れている状態で靴を脱いで歩くと濡れたり、靴置き場の窓から飛び出してくるのは困る。(生徒女)
- ・外部の人と先生の区別は付くか。(本校教員)
- ・見た事あるひとは先生かなと思っている。(生徒女)

- ・中学校の方が防犯は厳しかったし、保護者も名札を付けていた。(男子生徒保護者)
- ・商高は来校者に名札をつけないのか。(大学教員)
- ・事務室が空いている時は受付をしている。盗難は外部でなく内部ではないか。(事務長)
- ・ゴルフ部に興味を持って学校を選んだけど、女子の入れる部活が少ないと思う。(生徒女)
- ・保護者から見て良いところは？
- ・成績面でも伸びたのが一番嬉しい。世間に目を向けるようになったし、親に何でも聞いていたのがなくなった。教員が「熱い」。一生懸命にやってもらえるのがうれしい。(女子生徒保護者)
- ・基礎学力を伸ばす方法は参考にしたい。昔ながらの方法でない授業が気になる。(大学教員)
- ・子供をほめないといけないのか、しりをたたかないといけないのかといった、その子にあった方法を見つけるのが上手い。一人一人を見てもらっているのでは。(男子生徒保護者)
- ・兄弟姉妹が多くきてくれるのがありがたい。(本校教員)
- ・それはアピール出来るポイントだと思う(大学教員)
- ・昔と比べると、上の子が入ったときのクラブ生だとは思いますが、挨拶がすごかった。(女子生徒保護者)
- ・もうちょっと厳しくしてほしい。先生目が届いているところではちゃんとしているかもしれないが、通学途中などでみかけると、目に余る生徒がいる。商大に来ているという誇りを持ってほしいし、誰かが見ているという意識をしてほしい。私学の制服は見てわかるから、何しているのかと思う。そういう生徒が少なくても、目に付いたら学校全体のイメージが悪くなる。(女子生徒保護者)

「見られている」というよりは「見守られている」という意識でいてほしい。

社会からの目があるという意識は必要である。

保護者の規則を守っているという割合がズレが多すぎる。ルールが周知・共有されていない可能性がある。アンケートの集計の仕方によってもズレが出る可能性がある。(大学教員)

世間に目が行くようになった、など思わせるような取り組みとしてはどのようなものがあるか。(大学教員)

なんらかの成功体験(資格取得・進路・クラブなどの切り口)で広がっていったのではないか。そのためのいろんな教員がおり、どこかで嵌れば伸びるのでは。(教員3)

授業の中でなにかの質問が必ず出ることにに関して、真剣に答える。自分の意見を押しつけるのではなく、色んな意見を伝え、考えさせる様な事をしている。(教員1)

経験が少ないので色んな経験を伝えられるようにしている。(教員2)

授業アンケートをおこなって、教員が自分の授業を生徒がどのように捉えているかを確認している。(本校教員)

普通すぎる授業は「聞いていて、ノートをとるだけ」だとつまらない。1回でもおもしろい話(豆知識)がある授業のほうが興味を持てる。(生徒男)

日本史は雑談が多いけど、理解力がひくいと眠くなる。クイズ形式とかたとえ話とかをしてわかりやすい方がいい。(生徒女)

わかりやすい言葉でやる。(教員)

コミュニケーションをとりながらやる。生徒が一人一人に授業している様に感じられる教

員がうまく出来ている様に思う。(教員)

※最後に教頭より、大学や保護者の立場からの意見を伺える場を持たせた事は非常に参考になり、ありがたく、このような機会をまた持ちたい、というお礼があった。また、副校長より参加へのお礼と、いただいたいろいろな意見を活かしていきたい、という挨拶で会議を終了した。